

平成29年 第1回

宮崎市教育委員会（定例会）

会 議 録

平成29年 第1回宮崎市教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 平成29年1月23日（月）13：40～14：40
- 2 場 所 教育委員会室
- 3 出席者 【教育長・教育委員】
二見教育長、松野代表教育委員、藤元委員、畠山委員、江草委員

【事務局】

- （企画総務課） 時任課長、山本補佐、宮畑主幹、久保係長、
佐藤主査、田中主査、茂田主任主事
- （学校施設課） 長崎課長、大住補佐
- （学校教育課） 松竹課長、押川補佐
- （教育情報研修センター） 荒武所長、牧野次長
- （生涯学習課） 矢野補佐
- （保健給食課） 黒木補佐
- （文化財課） 日高課長、小窪補佐

4 報 告

番 号	件 名	説 明 者
報告第1号	第7回宮崎市地方創生推進本部会議、 第7回宮崎市総合計画策定会議の報告について	企画総務課長
報告第2号	その他の事件の報告について	学校教育課長 補佐
報告第3号	その他の事件の報告について	学校教育課長 補佐
報告第4号	その他の事件の報告について	学校教育課長 補佐
報告第5号	臨時代理の報告について	学校教育課長 補佐

二見教育長	<p>定刻になりましたので、平成29年第1回定例会を始めさせていただきます。</p> <p>本日の傍聴者はありません。</p> <p>会次第「2 会議録署名人の指名」です。資料1ページの資料1をご覧ください。</p> <p>本日の会議録の署名人は、私二見と、藤元委員を指名させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
委員	はい。
二見教育長	<p>それでは、会次第「3 教育長及び委員報告」に入ります。</p> <p>まず、(1)教育長報告でございます。</p> <p>2ページの資料1-2をご覧ください。</p> <p>11月10日(火)に東京都で行われた「中核市教育長会 第2回役員会・臨時総会・第2回研修会」に出席をしております。</p> <p>我々中核市の会として、今年度の主な活動報告であります。代表の中核市の教育長会会長が、文部科学省から意見を聞かれてこういう報告をしました、という内容です。テーマとしては3つございました。</p> <p>まず、デジタル教科書の位置付けに関する検討会議の意見について、我々がまとめた意見を伝えていただきました。</p> <p>既に使用している自治体もありますけれども、デジタル教科書を子どもに渡すとなりますと、莫大な予算がかかります。それから教科書の検定制度的ように、教科書をめくって審査、精査することとは違って、非常に負担が大きくなるので、紙ベースの教科書とデジタル教科書との関係をきちんと位置付けて欲しいという意見も述べてあります。</p> <p>それから、教育課程の学習指導要領の改訂についての中間まとめに関する意見の提出でありました。多くは、ずいぶん教科内容や教科時数等が増えるけれども、今の教育課程の中で大丈夫なのかという意見でございました。月曜日から金曜日まできちんと時間が入るのかという意見も伝えていただいております。</p> <p>それから、中核市市長会、これは市長の会ですが、権限移譲検討プロジェクト会議を作りました。この問題が再燃しています。中核市では、人事権の移譲をして欲しいという声がかまた起こり始めています。これは、中核市の首長もそれぞれ意見をお持ちの方々がいらっしゃるによるものです。宮崎市としては、かなりのプロジェクトを組んで、いろいろ整理したうえで、現状のままという結論を出してやってくるようです。</p> <p>市長会でもいろいろ温度差があり、教育長会の中でも温度差があります。そういったことから、もう一度プロジェクト会議をしようということで立ち上がりました。</p> <p>それから教育公務員特例法の一部を改正する法律案に係る説明会へも代表が出席しております。教員免許、研修に関する内容です。研修については、特に10年経過した人、11年を迎えた人の研修はかなりハードです。そういう研修を分散できないかという改正案に対しての説明で、こちらから意見を言う会に出させていただいております。</p> <p>それから議事は役員の改正について、引き続き宮崎市は監事を受けることになっております。感謝状贈呈者について、新規プロジェクト活動について、これが先ほどの人事権もそうですが、もうひと</p>

	<p>つ長期的に我々の目を見て国への提言が出来るようなプロジェクトを作ろうということで、今まとまっております。</p> <p>それから、文部科学省からお見えになって説明をいただいたのが、次の3の研修会です。「次期学習指導要領等について」というテーマで、講話がなされました。それから「教育再生」の実現に向けて、学習指導要領改訂の方向性等について説明をいただきました。現在48という中核市の数がありますが、中核市としての提案が、国にとっても大きな後押しになりますし、また要望としても大きな位置付けになるのでこれからも連携をしたい。あるいは中核市としての役割も果たしていきたいということでまとめられました。</p> <p>次に、(2) 教育委員報告でございます。</p> <p>3ページの1-3をご覧ください。1月13日(金)に東京都で行われた、「平成28年度第1回市町村教育委員研究協議会」について、江草委員に報告をいただきます。</p>
江草委員	<p>1月13日(金)に文部科学省の講堂で開催され、153名の参加がありました。</p> <p>最初に文部科学省から、初等中等教育施策の動向についての行政説明がありました。</p> <p>その後、宮崎県五ヶ瀬町の教育長をされていた、樋渡元教育長より「教育委員会新制度により教育委員の立場はどう変わるのか」という内容での講話がありました。その中で教師が変わらなければ教育は変わらないという言葉がとても印象に残りました。</p> <p>その後、5つの分科会があり、私はいじめ・不登校対策についての分科会に参加しました。滋賀県大津市の自殺の事件を踏まえて、いじめ防止対策推進法が成立されたということで、他の市町村では、どういったいじめ防止対策をしているかということについて教育委員同士の討論会が行われました。福島原発で避難している子どもたちの話が多く出され、市町村の取組についての発表がありました。その後、小中学校の9年間のいじめの追跡調査というのが2013年度から2015年度にあり、仲間はずれ、無視、陰口をされた経験、した経験も、どちらも9割ということで、いじめはどの学校のどの子どもでもあり得るのだという話をされました。</p> <p>私の隣に、佐賀県で弁護士をされている教育委員さんがいらっしゃってお話を伺ったのですが、その方は、子どもたちにいじめをしたらどうなるかという内容の講演をされていて、法的な視点から子どもたちに訴えて回っていますという話をされました。他県の方とは少ししか話が出来なかったのですが、とても有意義な研修でした。</p>
二見教育長	<p>次に、(3) 教育局長報告でございます。1月17日(火)に行われました、「第7回宮崎市地方創生推進本部会議及び第7回宮崎市総合計画策定会議」についてでございますが、これは「議事の報告」として、後ほど説明させていただきます。</p> <p>次に、(4) 各課行事等の報告でございますが、今回行事報告はございません。</p> <p>以上で行事等の報告は終了ですが、お気づきになった点やこれからの課題、また感想がありましたら、お願いいたします。</p> <p>それでは「4 議事」に入らせていただきます。</p> <p>本日は、報告が5件となっております。議案はございません。6ページをご覧ください。</p>

	<p>まず、報告第1号「第7回宮崎市地方創生推進本部会議及び第7回宮崎市総合計画策定会議の報告について」、事務局から説明をお願いします。</p>
時任企画総務課長	<p>1月17日(火)に行われました、報告第1号「第7回宮崎市地方創生推進本部会議及び第7回宮崎市総合計画策定会議」について、報告させていただきます。</p> <p>7ページをお開きください。教育局長報告である事項でございますが、局長不在のため、私から説明させていただきます。</p> <p>8ページをご覧ください。</p> <p>この会議につきましては、これまで6回会議が開催されております。会議では第5次の総合計画の策定に向けて全庁的に協議を行っておりまして、現在は計画のフレームを作成している途中の段階でございますので、今回の会議内容につきましては、教育委員会に係る主なポイントだけ説明させていただきます。</p> <p>前回12月に第6回会議が開催されておりましたが、その会議におきまして、教育委員会といたしましては、基本体系に関する内容の中で、教育の位置付けが明確でないとの要望意見を出しておりました。</p> <p>その結果といたしまして、委員の皆様には黄色のマーカーでお示ししておりますが、基本目標として「良好な地域社会が形成されている」という部分及び、重点目標の4として「地域に愛着や誇りを持つ「みやざきっ子の育成」」を加えることで調整が進んでおります。</p> <p>このことで来年度に向けて策定予定の、第2次教育ビジョンとの整合性や具体性が盛り込める総合計画になると考えております。</p> <p>今回の会議におきましても、まだまだ調整しなければいけない部分が多くあり、今後も引き続き関係部署と連携を図りながら、見直し作業が進められるとお聞きしております。</p> <p>以上でございます。</p>
二見教育長	<p>ただいまの説明について、ご質問はございませんか。</p> <p>他にないようでしたら、次に、報告第2号から報告第4号までの「その他の事件の報告について」、報告第5号「臨時代理の報告について」でございますが、これにつきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第1項第7号により、非公開といたしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。</p>
委員	はい。
二見教育長	それでは、ただいまより、非公開といたします。
二見教育長	<p>それでは、ここで非公開を解除いたします。</p> <p>次に、「5 その他」に移らせていただきます。</p> <p>委員の皆様から、情報提供等がありましたら、お願いいたします。</p>
畠山委員	<p>ネットのニュースで最近よく見かけるのですが、原発事故で横浜に自主避難してきた中学1年生の男子生徒が、転校した学校でいじめを受けていたということですが、そのことについて、横浜市教育委員会はいじめと認定するのは難しいという考えを示した、という内容です。こういうニュースを見ますと、もしこういうことが宮崎市で起きた場合、どのような流れになるのであろうかと思っております。いじめの問題が非常に多いということも耳にしますし、先ほど、江草委員が研修に行かれてお聞きになったという、9割の生徒がいじ</p>

	<p>められたことがあるというようなことからしますと、子どもたちは皆そういう経験があるのではないかと思います。</p> <p>宮崎市はいじめの件数も非常に多い数字があがっているということですが、私が考えるのは、この件数が多いということが問題なのかということです。いじめられた、いじめたという件数をたくさん声に出してあげる方が、私は健全なのではないかと思います。何が起きるか分からない状況の中、宮崎市としてはどのような取組になるのかということを、ニュースを見ながら感じたところでした。</p>
二見教育長	<p>押川補佐、宮崎市における、いじめの件数の考え方や、子どもたちがいじめを訴えた時の対応であるとか、もし答えられれば、横浜市教育委員会はいじめと認定できなかつた理由があるのでしょうか、宮崎市において、最終的にいじめと認定する判断の流れというものが分かれば教えてください。</p>
押川学校教育課長補佐	<p>現在、いじめの認知につきましての定義については、児童生徒本人の訴えがあった段階で、まずはじめと認知をし、調査をスタートするようになっておりますので、宮崎市としましては、その考え方のもとに、児童生徒から訴えがあったという形が出てくれば、それを1件とカウントするという事で、全ての小中学校にお願いをしております。</p> <p>その後の児童生徒への聞き取り、そして他の関係した生徒への聞き取り等をしっかり行い、そしてお互いに納得し、解決していくことが出来るように、そこをしっかりとやっていきたいと思います。</p> <p>子どもたちは納得していても、保護者に納得いただけないというパターンもかなりあります。保護者も含めてしっかりと話し合いをしていく、そこに時間はかかるかもしれないですけども、丁寧に取り組んでいくことが、いじめ1件1件について、大切に解決していくことに繋がっていくのではないかと考えております。</p> <p>また、いじめを認知する際も、なかなか児童生徒本人が声をあげるというのが難しいのであれば、アンケートを取ることもありますが、記名式だと書きづらいということもあることから、年に数回は無記名での調査もやっていただくように、各学校にはお願いしているところですが、そういうことも含めまして、各学校でいじめ防止対策基本方針を作っておりますが、実情に応じて少しずつ見直しながら、その学校にあった基本方針に改善していき、年間計画に沿って計画的に対応していただくとともに、事案が発生した場合には、速やかにいじめ防止対策委員会を各学校で立ち上げ、1件1件について丁寧に取扱いしていくことをお願いしているところですが、</p> <p>最終的にいじめかどうか認定することにつきましては、言った言葉の中にある、言った子どもの方の思いと、それから言われた子どもの方の思いの違いが、大きく出てくるのではないかと思いますので、そこを丁寧に聞き取りながら、教師が子どもたちと話をしていくことが大事になってくると思います。その教師の言葉を子どもが信じてくれるかどうかというのは、日常的な教師と児童生徒との人間関係にかかってくると思いますので、平日頃から子どもたちの声に耳を傾ける、聞くときはしっかりと聞いてあげる、そういう先生方の日常的な対応から、一つ一つの事案がしっかりと見つけ出され、解決していくことに繋がっていくと考えているところですが、</p>
二見教育長	<p>よろしいでしょうか。</p>

畠山委員	ありがとうございました。
二見教育長	<p>他にございませんでしょうか。</p> <p>それでは次に、1月20日（金）に行われました、「中学生との意見交換会」について、一言ずつ感想をいただきたいと思います。</p>
松野代表教育委員	<p>最近の中学生は本当にしっかりしているというのが正直な感想でした。どんなテーマで話し合いますよということも事前に全ては伝わっていないのに、あの場で教育長、学校教育課長が質問されたことに対して、すぐに手は挙がらなかったけれども、次第にどんどん挙がってきました。参加した中学生は日頃から物事に対して鋭い感覚を持てるような育て方をされているのだと本当に嬉しくなりました。</p> <p>特にいじめの問題では、「なかなか見つけられないよね」と私が質問しました。そんな時に君達だったらどんな援助の手を差し伸べられるだろうか、教えて欲しいと問いましたら、こうした方がいいという意見で大半を占めたのが、やはり人間関係だということでした。学校の学級の中、あるいは家庭の中で、親と子、生徒同士の信頼関係、人間関係がいかに大事か、そこに尽きるんだ、ということ聞きまして、人間関係は本当に大事だねと言いますと、中学生も頷きながら聞いていました。それを自分の言葉で返してくれたことを嬉しく思ったし、心強く感じました。</p>
藤元委員	<p>子どもたちが家庭という場から、一つの小さなコミュニティに出て行く。6歳から15歳という間で、一つ一つステップを登っていき、社会に出ていろいろな問題をクリアできる成長力を養っていくのが学校だと思います。</p> <p>教室というのが、教育委員会であれば課のような部分で、それぞれ異動があれば、そこでいろんなことをしなければならぬし、いろんな人とお付き合いをしないといけない。それをクラス毎に学年が上がる度に、嫌な人もいれば、好きな人もいて、この人とは一緒にいたくないと思っても、一緒にいる中で成長していくのだろうと思います。学校の教室というのはそういう素敵な人格形成をしていく場所として、最高の場所だと思っています。</p> <p>昨年及び一昨年もそうですが、今回参加した子どもたちはびっくりするくらい自分達の責任でいじめを解決しなくちゃという気持ちをたくさん持っています。皆生徒会長、副会長をしていて、リーダーとしての自覚を持っている子どもたちがほとんどでした。各教室も先生を中心に少しずついじめというものに対して皆で何とかしていこうという雰囲気が浸透しているのではないかとこのことを今回は少し感じました。毎年毎年やっていくと、年々教室の雰囲気形成が良くなっていく姿が見えるような気がします。ですから、今回は嬉しかったという感想です。</p>
畠山委員	<p>まず、センターにシクラメンの花が飾られ、そして新上五島町で起きたという奈良尾中学校の新聞記事が配られ、松竹学校教育課長が、今日は本音トークですよ、答えはありませんよと、子どもたちに笑顔で優しい声で話しかけられ進行されました。</p> <p>新聞にもありましたが、いい空気を醸し出す。その中で中学生達のがびのびと発言できたのではないかと思います。そういう準備に対しても感動したところでした。私が中学生だったらどんなことを発表したんだろうかと思うと、本当に嬉しく、笑顔が自然とこぼれてくるような時間を過ごさせていただきました。</p>

	<p>中学生達が自分達の時間を作るのが難しい中、友人のこと、学校のこと、また先生へのサポートもされているような、そんな頼もしいような発言もありましたし、きっと彼らがこのいい空気を宮崎市全体に広げてくれるのではないかな、という大きな期待を持ちながら、あの席に座らせていただきました。本当にいい意見交換会だったと思います。ありがとうございました。</p>
江草委員	<p>同世代の子どもを持つ親として、子どもたちが学校を良くしようとしているのをひしひしと感じました。一つのことに向かって一緒に取り組もうという気持ちが言葉に出てきていました。部活をしている子どももいて、部活も一生懸命しているし、勉強も一生懸命しているというのはとても素晴らしいことだと思っています。</p> <p>この間も言ったのですが、保育園の時に見た子どももいて、その時に見ていた子どもがこんなにふうに成長したのだというのが嬉しかったです。あの場を設けていただいてありがとうございました。</p>
二見教育長	<p>以前は、テーマを渡して、前もって文章にしたためてそれを読んで発表するような形だったのですが、もしかしたらこういうテーマになるかもしれないということはいくつか渡してはありましたが、完全に自分達でその時確かめ合って考えたのだろうと思います。</p> <p>何回もしていますが、こんなにも自由奔放に発言のあったことはなかったですね。ゆっくりさせて欲しいと言った子どももいましたけれども。後ろの先生達に聞こえるのに、下請けじゃないかと思うくらい色々させられる、と言うので、それもまたいい雰囲気だなと思って聞かせていただきました。</p> <p>ただひとつだけ視点を変えてあげておかないといけないと思ったのが、いじめられる側にも原因があるのだ、と言った子どもがいました。最後は両方の意見を聞かないといけない、と彼自身がまとめてくれたので良かったと思います。まだ、いじめられる側にも責任があるのじゃないか、原因があるのじゃないかという声が学校の中にもない訳ではありませんが、そういうことになってしまうと、全く視点が違ってきます。国が言っているように、「いじめられる側には責任はないよ。周りの空気だったり、関わり方だよ」と少し視点を変えた方がいいかなと思いました。</p> <p>もうひとつは、子どもたちの意見の言い方ですね。「こう思います」「それは3つの理由からです」と、理路整然と話す言語能力といますか、やれてるなあと思いました。そういう教育もなされてるのだと思います。非常に今までとは違う空気の中の意見交換会で、楽しかったと思います。旬なテーマで話ができて、どんな考えでいるのかを私達が聞くうえで、非常に大事な会になったと思います。ありがとうございました。</p> <p>それでは、「6 次回委員会の決定」について、事務局から説明をお願いします。</p>
時任企画総務課長	<p>次回定例会は、平成29年2月15日（水）、当初予算等の説明に時間を要しますことから、開始時間を通常より10分早めまして、午後1時30分からとし、また、終了時間も通常より20分長く取りまして午後3時20分までとし、教育委員会室で開催することをご提案いたします。</p>
二見教育長	<p>提案のありました日時で、次回定例会を開催してよろしいでしょうか。</p>

委員	はい。
二見教育長	ありがとうございます。 続きまして、「7 行事予定」について、事務局から説明をお願いします。
時任企画総務課長	(説明)
二見教育長	他にございませんか。 以上をもちまして、平成29年第1回定例会を終了させていただきます。